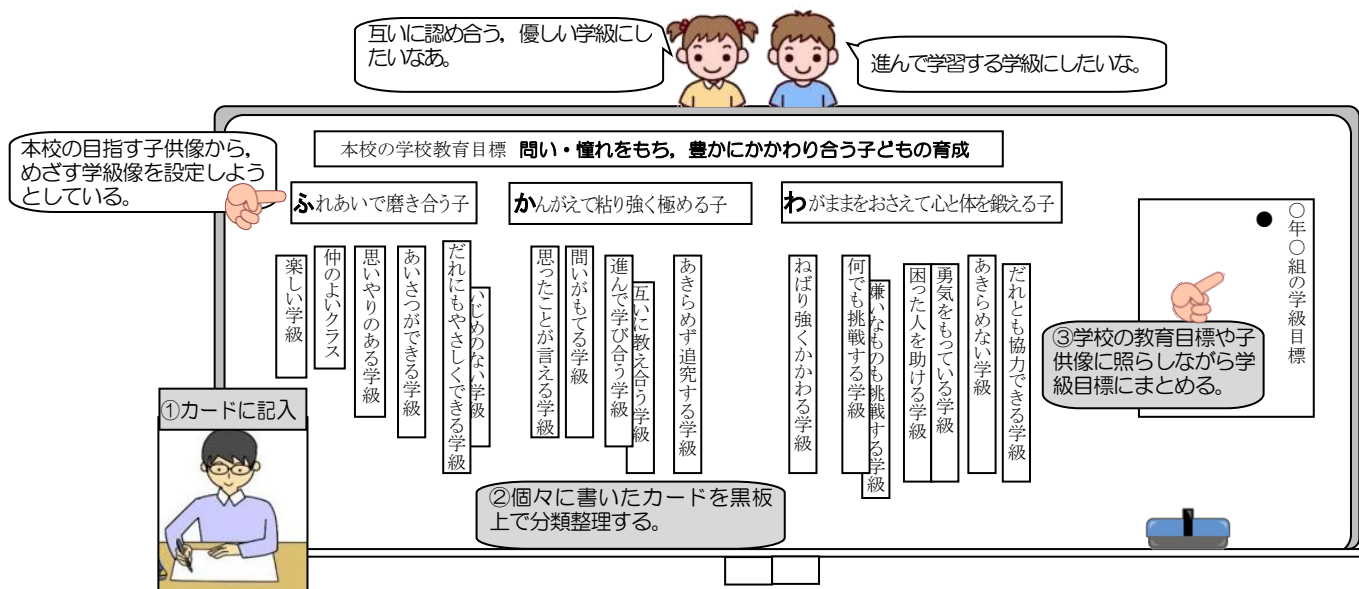
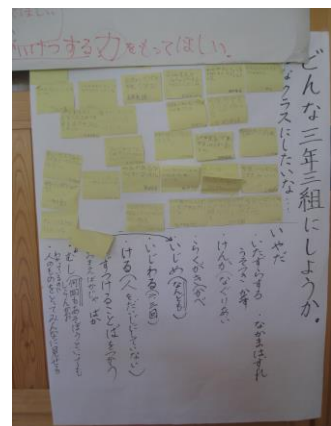
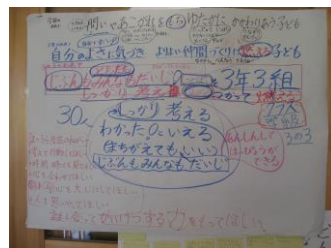


新学年当初の準備のひとつに、学年目標や学級目標を決める作業がある。多分、決めない学年・学級はないと思う。しかし、それがどこから考えられたものか疑問になったことがある。昨年度の同学年の目標から考えられたものか、これまでの経験から考えられたものか、教育雑誌を参考にしたものか。これでよいのだろうか。

本来は、自校の教育目標やめざす子供像を視野に入れ、学年主任や担任、また子供の思いや願いを行動レベルに変換したのが、学年目標であり学級目標と考えるのが妥当である。つまり、学校の教育目標を達成させるために、学年・学級に応じてより具体的にしたのが、学年・学級目標と考える。

何より、子供たちが「それが良い」と納得・了解する目標にしたいものである。子どもたちの自級への期待や願いを汲み取り、決意として整理させたい。この共有化の手順としては、

- ① 学校・学年のめざしている子供像を確認させる。
- ② どんな学級にしたいか、一人ひとりに考えを書かせる。
 - ・発言力のある子どもの意見で決定しないように、しかも学級の誰もが我が学級の問題として考えることができるようなプリントを用意する。
- ③ 一人ひとりの意見を黒板上で分類し、子供たちが納得する学級像を導き出す。
 - ・担任の意見も交えながら、低学年は教師主導、中学年は教師と子供主導の半々、高学年は子供主導で意見を整理する。



各学校には、必ず学校の教育目標があり、その下に学年目標、そして学級目標があることから、目標はその達成と具現化のために設定することになる。学級目標とは言え、学校の教育目標を達成のために大きく関わっていることになる。

その学級目標を達成させるために、子供の思いや願いを反映した具体的な方途等を決定していく必要がある。学期末には、自らが学級経営について評価をしたり、子どもから評価をもらったりすることが通常行われる。その結果を次学期に活かすサイクルが求められている。これが学級づくりであり学級経営である。(芝)